

愛知県立衣台高等学校 PTA学校通信

ころもだい

110号 2022. 11

東海地区高等学校PTA連
合会愛知大会に参加して

PTA会長 佐藤 秀和



日頃より、PTA活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

六月十七日(金)に、東海地区高P連「愛知大会」が名古屋市公会堂にてコロナ感染に充分配慮しつつ、二年振りとなる有観客の開催となりました。本大会の趣旨は、東海地区の高等学校PTA活動の充実発展と教育並びに社会・家庭教育の振興をはかる目的があります。

主催者挨拶の後、元高校教師の宮本延春(まさはる)氏による「オール1の落ちこぼれ、教師になる」と題した講演を聴く事が出来ました。宮本氏は一九六九年愛知県生まれ。小学生の時にいじめで学校嫌いになり、落ちこぼれて高校へ進学せず中卒で見習い大工として就職。その後、天涯孤独の身となりフリーターとなって人生を模索していく中、二十三歳のとき、偶然アイシシユタイン博士のTV番組を見て物理学に興味を持つ。その後、小学校で習うかけ算の二の段で挫折をしていたが、独学で勉強を始め、二十四歳で定時制高校へ進学。二十七歳で名古屋大学に合格。大学院まで進み九年間物理

の研究に没頭する。その後、母校の教師を経て、現在は自閉症の息子さんのケアをメインに育児・家事をしながら講演・執筆を通して、子供や大人を元気にしたいと毎日励んでいる方です。講話の中で生い立ちや過去の経験を経験となく笑いに変え、会場の方を巻き込みながら講演されていました。とてもユーモアのある方だなあという印象を受けました。

宮本さんの講話で感銘をうけたのは、「自己肯定感」について話をされていたことでした。この「自己肯定感」があると、ルールを守ろうという気持ち、思いやりの気持ち、そして学習意欲も湧いてくるのだそうです。自己肯定感が不安定だと、ルールを守ろうとしない、思いやりをもてず、いじめに発展、そして学習意欲も湧かないという負の連鎖につながっていきます。

では、子供たちの「自己肯定感」を育むにはどうすればいいか？一つでもいいから〇(いいところ)を見つけてほめる。そして三つの言葉を覚えていってほしいと言われていました。それは：

① Doing 子供の行動を評価してあげる。つまり、良いことを見つけて褒めてやる。

② Having どんな個性や特徴をもっているか。その個性、特徴を評価する。

③ Being 「在り方」、「存在する」ともいう意味ではありますが、ここではDoingやHavingも何

もなくとも、ただ「あなたがいてくれるだけでいい」という気持ち。

この気持ちが一番重要で、お子さんに声をかけてください。「ただ、あなたがいてくれるだけでいい」。これがお子さん、あるいは他の方に対する最大の評価となっていく、安心感を得たり、信頼関係の醸成に繋がっていきます。

この講演では、否定せずに対話をする大切さを学ぶことができました。人はひとりでは生きていきません。さまざまな環境やいろいろな方の支えがあり生活が出来ている事に感謝して高校生活を有意義に送って頂きたいと心から思います。

二十五年ぶりの衣台高校

教頭 梅村 泰司

保護者の方々には日頃から本校の教育活動に御理解と御協力を頂き誠にありがとうございます。

今年度から本校へ赴任しました。二十五年前の一年間、本校で常勤講師として勤務していました。久しぶりに本校に戻り、正門の坂道、銀杏並木、運動場を囲む緑、図書館からは六所山と炮烙山、岡崎奥殿陣屋の村積山が遙か遠くにきれいに見えています。

その懐かしい風景は、お帰りなさいと言われていたようで、衣台高校で再び勤務できることに喜びを感じています。

一方で、衣台高校へ再赴任して以前

と変わったことは、生徒数です。かつて勤務していた頃は、クラス数が各学年九クラスあり、全校生徒が千人近くいました。現在は、全校生徒とクラスは半減し、各クラスの人数も三十人ほどで、少し寂しいと感じました。しかし、一人の教員が一人の生徒に手厚い指導ができています。

さらに、学校生活で生徒同士も深い関わりをしています。実際に体育大会では、全校生徒が半減したにも関わらず、大きな盛り上がりを見せたのも、お互いが、深い関わりの中で信頼関係や絆が生まれているからです。

先日、お会いした中学校の先生が教え子からこのようなことを言われたそうです。衣台高校を卒業し、就職した生徒からです。

「仕事は辛いです。もう一度、衣台生に戻りたいです。衣台はとても充実していたし、楽しかったです。」

教員という仕事は、学校が楽しかったと言ってもらえるのが一番の褒め言葉だと思っています。このような生徒が一人でも多くいるような衣台高校にしていきたいと思っています。

保護者の方々には今後とも御理解と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

体育大会に参加して

PTA生徒委員 江崎 智子

今回、初めて参観させてもらった体

育大会は、六月二日(木)に行われま

した。コロナ禍で中止となった去年よりは落ち着いた時期でもあって、三年生の保護者のみ招待することができ、晴天にも恵まれ清々しい、開放感を感じた日でもありました。

今年の団旗には、「猪突猛進」とあり、団旗や各団それぞれの色のTシャツの背中に刻まれました。それは、目標に向かってまっすぐ突き進むという意味であり、今回はポジティブな意味のみを重視し、各団一丸となって取り組むことを期待したものでした。

それぞれが一生懸命に取り組む、そのスローガン通り、各種競技では、各個人、各学年、各団、生徒や教師、保護者の方々がリアルに歓声をあげ、応援している光景を目の当たりにできてとても嬉しく思いました。

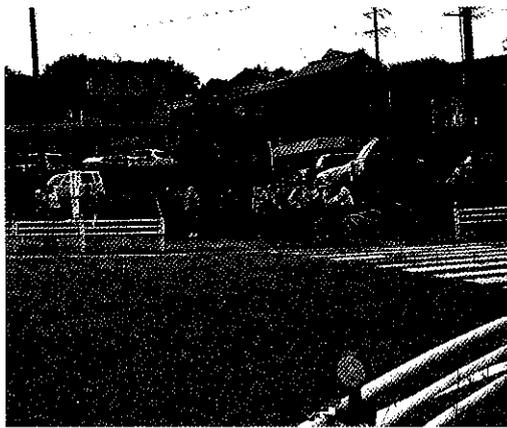
リレーなどの種目一つに盛り上がる光景や応援合戦のように皆が一丸となって取り組む生徒達の姿は、互いの信頼と絆が深まったようにも感じ、例年よりもより一層力強く輝いていたのではないかと思います。

PTA交通安全運動

PTA生徒委員 内野 美希

六月十七日に、豊田市役所と豊田警察署のご協力をいただき、校門前、衣台東側大通り、汐見町バス停、高崎交差点で交通安全運動を行いました。

私は、交通委員の生徒や先生と一緒に校門前で下校の様子を見守りました。校門前の道を通行する車も多く、歩行者、自転車と車のすれ違いが危険に思いました。特に、自転車で帰る生徒は、校内の下り坂でスピードが出やすいので、しっかりと安全確認をしてほしいです。豊田市役所の方のお話では、自転車で乗る時は、ヘルメットを着用することが、事故の被害を軽減するために効果的だということでした。交通事故が起らないように、日常的に交通安全について家族でも話していきたいと思えます。



就職面接指導に参加して

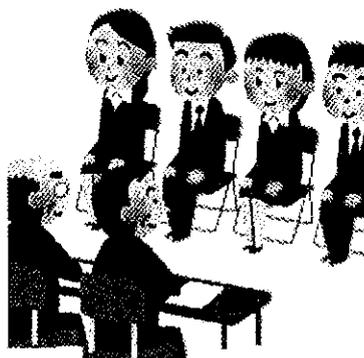
PTA進路委員 平尾 麻衣子

今年度も、就職を希望している三年

生を対象に、夏休み中に先生方と外部講師の方々との面接指導が行われました。PTAの役員・理事も参加させていただきました。

生徒たちは、各グループに分かれ、毎回九十分の中で、入退場、姿勢、身だしなみ、言葉遣いなど、基本的な指導から始まり、本番同様の面接を繰り返して受けながら学んでいきます。初めのうちは、声も小さく、なかなかスムーズに言えなかった生徒もアドバイスや改善点を聞いて上達していくのがわかりました。

今回学んだことを活かして、就職希望者全員が面接で実力を発揮し、成功されることを心から願っています。



逢妻女川クリーン活動

PTA総務委員 崎本 朋子

九月十日(土)に、コロナの影響でずっと中止されていた逢妻女川クリーン活動が三年ぶりに行われました。前夜の大雨も朝にはやみ、晴天に恵まれ



ました。早朝にもかかわらず生徒四十六名、PTA十三名、教員十二名と多くの方に参加して頂き、地域の方と一緒に逢妻女川の堤防を歩きながらゴミ拾いをしました。衣台高校が担当した区域は、毎年九月中旬頃から下旬にかけて、川の兩岸の土手に彼岸花が咲き誇ります。真っ赤に色付いた彼岸花を鑑賞したり写真撮影したりする人など、毎年豊田市内外多くの方がこの場所を訪れているので、満開になる前にきれいにする事ができてとても良かったと思います。

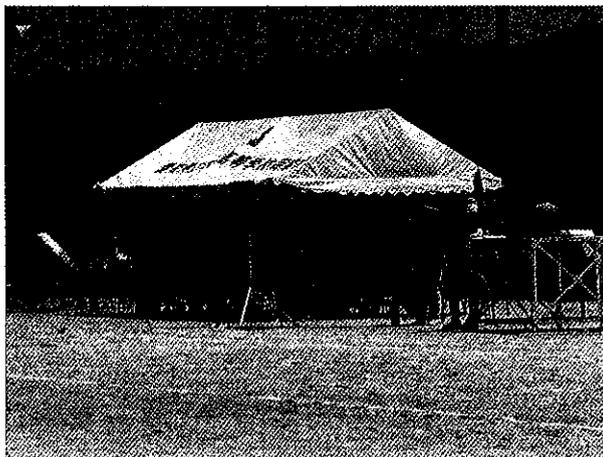
その他の区域では、小中学校、地域の方、企業のボランティアの方々とかくさんの方が参加する活動ですが、ここ数年コロナの影響で一部例年通りの活動ができていない状況です。早くコロナが終息し、地域交流を深める良い機会が復活することを願っております。



PTA総会・授業参観

教頭 高橋 直之

PTA総会が五月七日(土)に開催されました。今年は三年ぶりの開催となりました。総会に先立ち授業参観を行いました。こちらも三年ぶりの実施となり、例年以上に多くの保護者の方に、授業や普段の生徒の様子を見ていただきました。総会では、新たなPTA役員が選出され、今年度の事業計画と予算案が承認されました。総会の後は、学年ごとに学年懇談会が行われ、学校の方針や行事などについての説明がありました。来年度の日程はまだ決まっていますが、多くの保護者の皆様が参加しやすいPTA総会にしたいと考えています。



【生徒の活動実績】

◇ハンドボール部(男子)

令和四年度西三河地区高等学校

ハンドボール選手権大会

男子の部 第八位

◇卓球部(女子)

第三十四回西三河地区高等学校

卓球リーグ大会

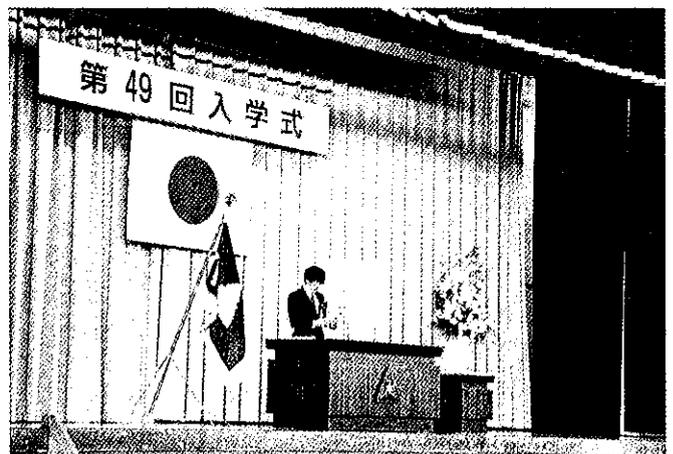
準優勝

◇合唱部

第六十二回愛知県合唱コンク

ル

銅賞



ころもダイアリー vol.109

体育大会 (6月2日) **一丸となって競技に取り組みました!**



中学生体験入学 (7月29日) **在校生が主体となり、中学生に案内をしました!**



編集 後記

with コロナと言われ早3年、今年は行動制限もなく夏休みも過ごせ、家族の思い出も作れました。とは言え、状況によっては人数制限があったり、マスクをしたり…。気にしない世の中に早くなってほしいものです。 (総務委員 原口真由美)